

令和5年度第1回高知県食育連携推進協議会 議事要旨

日時：令和5年7月5日（水）午後2時～午後4時

場所：高知共済会館 COMMUNITY SQUARE 3階 大ホール「桜」

方法：対面とオンライン（Zoom）の併用開催

出席者：出席11名、代理出席1名、事務局11名

○協議事項

- (1) 会長、副会長の選出
- (2) 令和4年高知県県民健康・栄養調査の結果
- (3) 第3期高知県食育推進計画の達成状況及び令和5年度の取組について
- (4) 第4期高知県食育推進計画の目指す姿と基本方針
- (5) 第4期高知県食育推進計画骨子（案）
- (6) 第4期高知県食育推進計画策定スケジュール
- (7) その他

○議事等概要

- (1) 会長、副会長の選出

委員の中から、会長に新谷委員、副会長に津野委員を選任した。

- (2) 令和4年高知県県民健康・栄養調査について

事務局から別冊「令和4年高知県県民健康・栄養調査の概要」をもとに調査概要について説明を行った。

[内容等]

- ・質疑なし

- (3) 第3期高知県食育推進計画の達成状況及び令和5年度の取組について

事務局より資料2、2-1をもとに達成状況等について説明を行った。

[内容等]

■「朝食を必ず食べる児童生徒の割合」の指標

- ・委員より、朝食欠食の理由のアンケート調査で「時間がない」が1位であることについて、保護者の時間がないのか、子どもの時間がなくて食べられないのかの質問があり、事務局から、現在の調査では読み取れないが、なぜ時間がないのかを掘り下げて分析し、欠食に対応した取組を進めていきたい旨を回答した。
- ・委員より、保護者自身が朝食を摂って育っていれば、子どもにも摂らせることが当たり前になると思うので、保護者も含めた取組が必要との意見があった。

- ・委員より、中学生は部活動や学習時間などと朝食を食べる時間よりその他の時間が優先される生活習慣になってきていることや保護者も同様な生活習慣になることは仕方ないという保護者が増えている傾向がある。また、朝食欠食の理由に時間がないと回答した子ども達が朝食欠食を改善するためには早寝早起きが必要と回答している。生活習慣全般に課題を抱えた子ども達が増えてきていると思うので、朝食摂取を切り口に生活習慣全体を小学校低学年から指導していく必要がある。そのために、学校栄養士会では、栄養士や学級担任が活用できる ICT 教材等を作成し、広く活用できるよう取組を行っていくという意見があった。

■「3歳児保護者に対して基本的生活習慣の学習会等を実施した保育所・幼稚園等の割合」の指標

- ・委員より、園行事等を活用した学習会の周知等についての質問があり、事務局から、案内時は園から保護者全体へ周知していることや内容についても保護者同士が話をし、つながりができるよう工夫していること、また、参加できなかった保護者に対しても園から内容を周知する等、全ての保護者に周知している旨を回答した。

■「学校給食における地場産品の活用」の指標

- ・委員より、地産地消は大切であり、子ども達に地元でとれた食物を意識して食べてもらえるようもっと給食に取り入れてもらいたいとの意見があり、事務局から、地場産物を活用し子ども達が地域のことに理解を深めながら食べることは教育効果が高いため、今後も検討を重ねていきたい旨を回答した。

■「南海トラフ地震時栄養・食生活支援活動ガイドラインに基づく市町村災害時保健活動マニュアルの策定状況」の指標

- ・委員より、災害時の支援体制を強化できるよう、県栄養士会と行政が協議する場を年1回開催してほしいとの意見があり、事務局から、情報共有の会を開催できるようにしていきたい旨を回答した。

■「食生活改善推進員の数」の指標

- ・委員より、養成時のポイント制について質問があり、他の委員と事務局から、養成教室参加者の負担軽減のため、受講時間が40時間から20時間に短縮されたことや各講座にポイントを付け、必要ポイント数を獲得すれば会員になるシステムについて説明した。
- ・委員より、目標値の設定について1,800人維持でよいかの意見があり、他の委員から、健康づくり推進員や民生委員等兼ねている会員もおり、無償ボランティアであることが会員減の要因となっていることや一部市町村協議会では有償の形も取り始めており、それが会員減に歯止めがかかればよいが、1,800人の目標は高いとの意見があった。事務局から、次期計画策定に向け、育成の仕方を含め、食生活改善推進員を維持できる対策等、委員の皆様や関係団体と検討していきたい旨を回答した。

(4) 第4期高知県食育推進計画の目指す姿と基本方針について

(5) 第4期高知県食育推進計画骨子（案）

事務局より資料3、4をもとに基本目標及び基本方針等について説明を行った。

また、朝食を必ず食べる児童生徒の割合について、これまでに委員の皆様からいただいた意見を踏まえ、次期計画の目標値を本県の実態に合った指標の設定に変更したい旨を提案した。

[内容等]

- ・委員から、なぜ朝食を食べられないのか、朝食を食べられる環境をどう整えられるのかについての調査を行い、その具体化した課題にしっかり取り組むことで、絶対に数値は上がってくると思う。また、子ども達の食を考えるいい機会であり、時間がない忙しい子どもほどしっかり食べないといけないという状況もあるため、踏ん張って、しっかり教育していくことが大事である。目標値を下げるべきではなく、朝食を食べることは重要であることを県民に浸透できる計画にしてほしいという意見があった。
また、第4期の目指す姿の3つめにある「地域とのつながり・絆を大切にした高知家ぐるみの食育の実践」の「絆を大切にした」を国の第4期計画にあわせ「持続可能な」に置き換えることを検討してほしいとの意見があり、事務局から再検討をする旨を回答した。
- ・委員から、忙しい時でも食べられる朝食内容の具体例や少しでも食べてもらえるような対策を具体化し、学校等と協力し朝食摂取ができる環境づくりをしていくことも必要ではないかと意見があった。
- ・委員から、朝食摂取の数値目標は非常に達成が難しいと実感しているが、朝食を摂取しなくてもよいと思っている子ども達が沢山いる高知県の実態を改善していくために栄養教諭が専門性を持って個別相談、指導を通して子ども達に真剣に向き合っていく必要があると考えている。また、20代女性の朝食摂取率が非常に低い実態や保護者の朝食欠食が常態化している中で子ども達の行動変容は難しい。そのため、様々な機会をとらえ、保護者に個別に関わっていくことや時間のない人がどのようなものなら食べられるのかを提案する等スモールステップで少しずつ欠食をゼロに近づけるよう取り組んでいきたい。今も精一杯取り組み朝食摂取率を維持できている状況であるため、これまでの継続だけではこれ以上の成果を出すことは難しいと思う。何ができるのかを考え、組織としても学校全体としても取り組んでいきたいとの意見があった。
- ・委員から、食育の基本は一番小さい時（離乳食スタート時）であり、食べたときに美味しいと心が満たされることが大事だと思っている。生活リズム名人を3歳児に行っており、園児は良い生活リズムができればシールを貼れることがうれしく頑張っている。保育士は保護者にその様子を個別にフィードバックするなど、良い生活習慣の定着に向けたツールだと思うので、継続して行っていきたいとの意見があった。
- ・委員から、朝食を必ず食べる児童生徒の割合については、第3期の目標値を維持し、達

成できるように取り組むことが重要である旨の意見があり、全員の賛同があった。

- ・事務局から、委員の皆様の食育活動への期待の大きさと次期計画の目標を達成できるような内容を盛り込み計画策定を進める旨のご意見をいただいた。次期計画における具体的な指標及び目標値については次回の協議会で諮れるよう検討し、案を示す旨を回答した。

(6) 第5期高知県健康増進計画（よさこい健康プラン21）策定スケジュール

事務局より資料5をもとに策定スケジュールについて説明を行った。

[内容等]

- ・委員から食育ピクトグラムの使用について質問があり、事務局から、農林水産省のホームページに掲載していることを回答した。

今回の協議内容について了承され、以上で会議を終了した。